

# サンルダム周辺整備計画

森林と牧場に包まれた湖とエコパーク



平成27年11月

北海道下川町

# 目 次

## 下川町の概要と特性

1	下川町の概要	1
(1)	位置と歴史	1
(2)	気 候	1
(3)	交通状況	1
(4)	人 口	1
2	下川町の特性	2
(1)	豊かな自然とともに暮らすまち	2
(2)	森林未来都市を目指すまち	2
(3)	住民の手と行政の協働によるまちづくりが盛んなまち	2

## サンルダム周辺整備方針

1	計画策定の意義	3
2	周辺整備にあたっての視点	3
(1)	社会的な視点	3
(2)	経済的な視点	3
(3)	環境的な視点	3
3	周辺整備方針	4
(1)	観光の推進	4
(2)	産業の振興	4
(3)	新たな産業の創出	4
(4)	自然との共生	4
(5)	資源としての保全整備	4

## 重点整備ゾーン

1	A地区	サイトシーイング（観光、遊覧）ゾーン	5
2	B地区	親水ミュージアムゾーン	6
3	C地区	21世紀の森ゾーン	7
4	D地区	ビオトープゾーン	8

## 参考資料

参考資料 1	サンルダム建設事業の経過	9
参考資料 2	サンルダム周辺整備計画策定の経過	10

## 下川町の概要と特性

### 1 下川町の概要

#### (1) 位置と歴史

下川町は、北海道の北部に位置し、東西に約 20km、南北に約 31km、総面積 644km<sup>2</sup> を有する内陸の町であり、天塩川水系である名寄川の流域に沿って開かれた山村であり、ピヤシリ山、ウエシリ岳などの低い山々が波を打つように連なっています。

下川町に開拓の鋤がおろされたのは明治 34 年で、岐阜県高鷲村から渡道した 25 戸の団体が、名寄川上流のこの地に入植されたのが始まりです。

#### (2) 気 候

気候は、内陸性の気候を示しており、夏は 30℃、冬は -30℃ を越える寒暖の差が大きい地域で、平均気温は 1 月が -9.3℃、8 月が 19.5℃ となっています。また、積雪は平野部で約 1.2m、山間部では 3m 近くに達し、12 月上旬から 3 月下旬頃まで降雪が続く積雪寒冷地です。

#### (3) 交 通

交通は、北海道北部を横断する国道 239 号線が町の中央を東西に横断しており、その国道 239 号線とオホーツク海北部沿岸地域を結ぶ北海道道 60 号下川雄武線、上川中部を結ぶ北海道道 101 号下川愛別線が南北に縦断し、広域交通網の要所となっています。

#### (4) 人 口

人口は、昭和 35 年の 15,555 人をピークに一貫して減少を続けていますが、平成 2 年頃から鈍化し、平成 27 年 4 月 1 日現在で 3,445 人となっています。特に近年は、自然動態による減少は依然続いているものの、社会動態による減少は緩和している傾向にあります。

## 2 下川町の特性

### (1) 四季折々の多彩な自然とともに暮らすまち

下川町は総面積の約9割を森林で占める自然豊かな農山村地域です。

町の中心を悠々と名寄川が流れ、その流域に市街地や肥沃な農地が広がっており、四季折々に多彩な表情を見せています。また、森林や河川には多種多様な生物が生息するなど、豊かな自然環境を有しています。

### (2) 協働によるまちづくり

下川町は、急激な過疎の進行と産業の低迷による危機感から住民と行政が一体となったまちづくりに取り組み、昭和56年から始まった「ふるさと運動」では、手づくり観光資源日本一をめざした万里長城の築城、アイスキャンドルなど多彩なアイデアを活かし、都市との交流を促進するなど、様々な取り組みをこれまで展開してきました。こうした活動の中から手延べ麺やトマトジュース、木炭関連製品など多くの特産品が生み出されています。

### (3) 森林共生低炭素社会の創造

下川町は、地域最大の資源である森林を活用し、循環型森林経営により安定的な経済基盤と雇用を確保し、まちづくりの基盤を築いてきました。

そして、半世紀にわたり築いてきた森林共生型社会を基盤として、豊富な森林資源を最大限に活用し、森林総合産業の構築、エネルギーの完全自給、超高齢化社会への対応の3つを柱に、環境・経済・社会の持続発展による「森林未来都市」を目指しており、その具現化に向けて取り組んでいます。

## サンルダム周辺整備方針

### 1 計画策定の意義

下川町は、「森林と大地と人が輝くまち・しもかわ」を将来像として、「第5期下川町総合計画」を基本に、「森林未来都市の創造」を目指し、まちづくりを展開しています。

また、地域資源を活用した持続可能な産業基盤の構築やエネルギー自給への取り組みなど柱とし、下川町で暮らすことが幸せと感じる幸福度の高い地域を創ることを基本とした「下川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を検討しています。

このような中、湛水面積約 3.8 k m<sup>2</sup>を有するサンルダムの整備により、新たに創出される湖やその周辺は、21世紀の森やサンル牧場に隣接する「緑と水のある貴重な空間」となります。その美しい景観や多種多様な動植物の生息、豊かな自然環境は、新たな地域資源として、潜在的なポテンシャルを有しており、今後の地域づくりの大きな基盤となる可能性を秘め、憩いや学習の場とともにそして新たな観光資源として活用を図るため、サンルダム周辺整備計画を策定します。

### 2 周辺整備にあたっての視点

#### (1) 社会的な視点

サンルダム周辺は、観光資源として、あるいは住民の憩いの場として多くの可能性を秘めていることから、周辺整備による交流人口の拡大などに期待が寄せられており、域外の時世の流れも考慮しながら、地域振興に寄与する視点を持って進めます。

#### (2) 経済的な視点

本町の経済情勢は、地元企業の低迷、雇用機会の減少など依然として厳しい状況にあり、地域経済の活性化に向けた取り組みは今後とも不可欠です。

サンルダム建設により創出される湖とその周辺は、本町における新たな産業資源と成り得る可能性があることから、周辺整備に当たっては域内外の経済情勢を考慮する視点を持って進めます。

#### (3) 環境的な視点

サンルダム周辺には、多種多様な生き物が生息するほか、21世紀の森には針広混合の天然林や針葉樹を主体とした人工林が見られるなど豊かな自然環境を有しています。

その美しい景観や様々な動植物が生息できる環境を将来にわたり活用していくことができるよう、自然環境と共生する視点を持って進めます。

### 3 周辺整備方針

21世紀の森と牧場、湖が調和した自然環境を活かし、下川町らしい特色ある整備を図り、魅力ある観光資源と持続可能な産業を創出し、自然とのふれあいや学習の場を提供するとともに、人々に親しまれる空間を形成します。

- 自然空間と人工空間を利用して、四季の彩りを見せる景観を構築します。
- 住民の福祉の増進に寄与し、産業振興と地域振興を図ります。

#### (1) 観光の推進

ダムや周辺の恵まれた自然環境や美しい景観を活かし、観光関係団体や森林に携わる団体等と連携し、体験型観光と広域観光ルートの確立を推進するとともに、うどん祭りやアイスクャンドルミュージアム等のイベントを活用し、五味温泉、地域間交流施設「ヨックル」などの宿泊施設と連携しながら、町内への誘客促進を図ります。

#### (2) 産業の振興

ダムやダム周辺の広大な土地、豊富な水、或いは湖周辺の森林を活用し、地元企業や団体等の既存事業の拡大や新分野進出を支援し、持続可能な地域産業を推進します。

#### (3) 新たな産業の創出

同じくダムやダム周辺の資源を活用し、誘致企業へのフィールドの提供や町外企業の誘致なども視野に入れ、新たな産業の創出に努め、雇用機会の創出と地域経済の活性化を図ります。

#### (4) 自然との共生

21世紀の森や湖周辺の森林環境を自然とのふれあいや学習活動に利用できる場とするとともに、学校や森林に携わる団体等と連携し、その活用を推進します。

#### (5) 資源としての保全整備

地域性豊かな植生を創出するため、植物や森林、観光に携わる団体等と連携し、地域に自生する珍しい植物や実のなる植物、水を浄化する植物等の植栽に努めます。

## 重点整備ゾーン

### 1 A地区 サイトシーイング（観光、遊覧）ゾーン

A地区は、市街地から約5km北に位置する堤体の建設地であり、左岸には象の鼻展望台や珊瑚望郷之碑があり、右岸には道道の駐車帯や管理棟が整備される予定です。

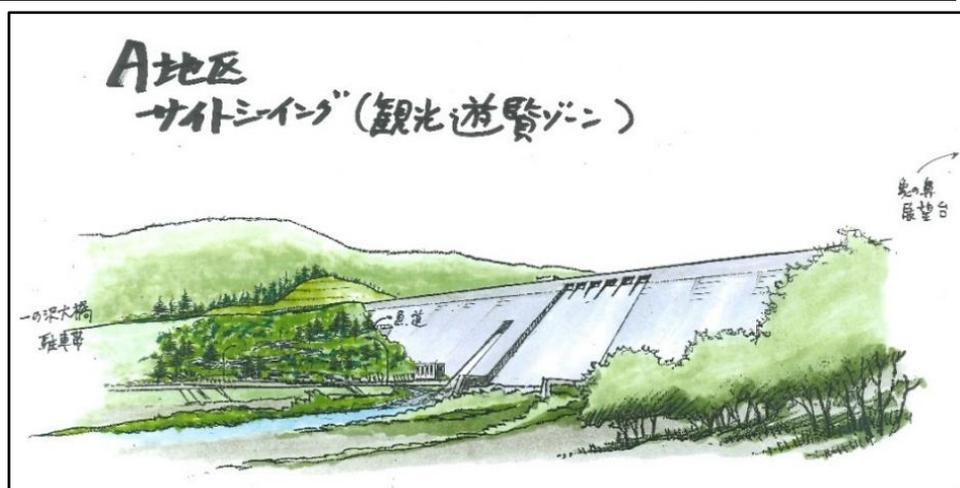
左岸側は、地形上、湖や堤体を一望できる位置にあることから、象の鼻展望台を有効に活用するとともに、ダム事業や地域に関する資料等の管理棟内に設置していただくよう関係機関と調整し、眺望環境や望郷環境、学習環境等の整備を図ります。

また、新たに創出される湖やダム堤体を観光資源や産業資源として有効に活用するため、管理棟や駐車場の整備に合わせ、下川町らしさをイメージした環境整備を行い、観光や森林、教育に携わる団体等と連携し誘客の促進やダムへの理解促進を図るとともに、産業の振興につながる取り組みを進めます。

- (1) 位置づけ 展望の場、憩いの場、学びの場  
 展望台からダムや湖を眺めたり、管理棟で休憩したり、ダムについて学習したりする場とします

#### (2) 主な整備内容

整備内容	時期	事業費	備 考
象の鼻展望台の再整備	H26	10,984	実施済
展望台から堤体までの散策路			
展望台周辺の整地			
駐車場の整備			
ダムの資料・模型			管理棟内
地域情報の発信			管理棟内
案内板			
道路改良			23線道路
堤体の活用			監査廊



## 2 B地区 親水ミュージアムゾーン

B地区は、市街地から約10km、堤体から約5km北に位置する地区であり、道道から湖面まで緩やかな丘陵地を形成していますが、この間に魚道が整備される予定となっています。

このため、魚道に配慮しながら、湖や周辺の森林、雪氷など多様な資源を活用し、体験や学習、休養ができる環境を創出し、森林や観光に携わる団体等と連携しながら誘客の促進を図るとともに、企業等と連携して新たな産業の創出も視野に入れた取り組みを進めます。

### (1) 位置付け 多様な活動の拠点の場

湖としての魅力が高まるように利便性、景観性、コミュニティ性を強化し観光や体験、学習、休養など様々な活動の拠点となる場とします。

### (2) 主な整備内容

整備内容	時期	事業費	備考
エリア内道路			
駐車場			
多目的広場			
案内板			
電灯			
トイレ			



### 3 C地区 21世紀の森ゾーン

C地区は、珊幸線から左岸に位置する鼻の展望台までの長大な地区で、21世紀の森町有林に接する地区となっています。

このため、四季折々に森林とふれあえ、森林浴や散策などを通して動植物と森林の関わりを学ぶなど、森林や自然について学習できるよう、関係機関や森林に携わる団体等と連携し、湖畔を巡る道路の整備や地域に自生する実のなる植物の植栽など、特色ある植生や空間を創出し、都市・地域住民の憩いの場、癒しの場として整備を進めます。

- (1) 位置付け 学びの場・憩いの場・癒しの場  
ダム左岸を森林や自然を学ぶ場、都市・地域住民の憩いの場、癒しの場とします。

#### (2) 主な整備内容

整備内容	時期	事業費	備 考
管理用道路・駐車帯			
実のなる森			コクワ・山葡萄の森
小鳥の森			巣箱の設置



#### 4 D地区 ビオトープゾーン

D地区は、市街地から約15km北に位置するサンル12線付近であり、サンルダム植樹会として実施している郷土の森づくりの植樹地や福寿草の移植地があるほか、サンル川と魚道の分岐点があるなど、多様な動植物が生息する地区となっています。

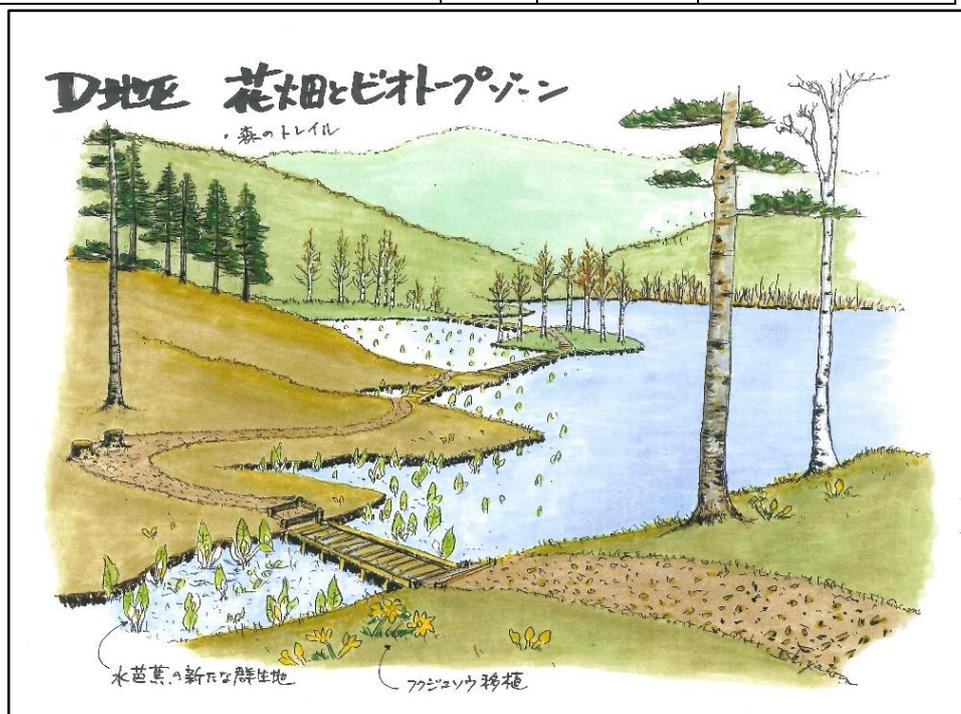
湖の上流部に位置しており、平地が多く池もあるため、野草を含め花や水草などの植物が自生しており、野鳥や小魚、昆虫などが生息できるビオトープゾーンとしての整備を進めます。

特に、本町に自生する樹木や希少な植物などを植栽し、多種多様な動植物が生息できる環境を創出します。

(1) 位置付け 自然との共生の場、交流、憩い・学習の場  
多種多様な動植物が生息する場とします。

(2) 主な整備内容

整備内容	時期	事業費	備考
遊歩道			
地域に自生する樹木の植栽			
希少植物、浄化植物の植栽			
資源作物の植栽			



参考資料 1

サンルダム建設事業の経過

年 度	西 暦	経 過
昭和 41 年	1966	天塩川水系工事実施基本計画策定
昭和 43 年	1968	予備調査着手
昭和 62 年	1987	天塩川水系工事実施基本計画変更告示
昭和 63 年	1988	サンルダム実施計画調査着手
平成 5 年	1993	サンルダム建設事業着手
平成 7 年	1995	サンルダム環境影響評価手続き完了 (H7. 7) サンルダムの建設に関する基本計画告示 (H7. 8)
平成 10 年	1998	損失補償基準妥結調印 (H10. 4)、用地買収着手
平成 11 年	1999	北海道道 60 号下川雄武線付替道路工事着手
平成 12 年	2000	サンル地区住民の家屋移転完了
平成 14 年	2002	サンルダム建設事業再評価 (H14. 8) : 継続答申 天塩川水系河川整備基本方針策定 (H15. 2)
平成 15 年	2003	第 1 回天塩川流域委員会開催 (H15. 5)
平成 18 年	2006	第 20 回天塩川流域委員会開催 (H18. 12. 最終) 天塩川水系河川整備計画 (原案) 説明会開催 (H19. 1) 公聴会開催 (H19. 2)
平成 19 年	2007	寄せられたご意見に対しての北海道開発局の考え方を公表 (H19. 8) 天塩川水系河川整備計画策定 (H19. 10) サンルダム建設事業再評価 (H19. 12) : 北海道開発局事業審議委員会 へ報告
平成 20 年	2008	北海道道 60 号下川雄武線付替道路一部区間供用開始 (H20. 4) 第 1 回サンルダムの建設に関する基本計画変更告示 (工期変更 : H20 →H25) サンルダム建設事業再評価 (H20. 8) : 継続答申
平成 21 年	2009	サンルダム堤体建設工事の入札手続きを取りやめ (H21. 10) 新たな基準に沿った検証の対象とするダム事業に区分 (H21. 12)
平成 22 年	2010	サンルダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場を設立 (H22. 12) (→平成 24 年 9 月 検討結果を本省報告)
平成 24 年	2012	北海道道 60 号下川雄武線付替道路の全線開通 (H24. 10) 国土交通大臣による対応方針【継続】の決定 (H24. 11) サンルダムの建設に関する基本計画の変更について意見照会 (H24. 12)
平成 25 年	2013	第 2 回サンルダムの建設に関する基本計画変更告示 (工期変更 : H25 →H29) (H25. 5)

参考資料 2

サンルダム周辺整備計画策定の経過

年 度	西 暦	経 過
平成 3 年	1991	サンルダム周辺開発整備計画審議会を設置、町より諮問
平成 4 年	1992	審議会よりサンルダム周辺開発整備構想概要答申（愛称：サンルー チェ・プラン） サンルダム周辺開発整備構想検討業務報告書を取りまとめ
平成 13 年	2001	サンルダム周辺整備計画審議会を設置、町より諮問
平成 14 年	2002	審議会より中間報告 サンルダム建設と町の活性化を図る会より提案(1回目)
平成 15 年	2003	審議会より答申 サンルダム周辺整備検討会を設立、検討
平成 16 年	2004	サンルダム建設と町の活性化を図る会より提案(2回目)
平成 18 年	2006	サンルダム周辺整備計画(案)を取りまとめ
平成 25 年	2013	サンルダム周辺整備計画審議会を設置、諮問
平成 27 年	2015	審議会より答申 サンルダム周辺整備計画策定